



スポーツの、芸術の、そして〜の秋

エプロン通信員 備瀬 真理

その時古傷の右膝が「ゴツ」と動いた。「その時歴史が動いた」を引用しました。が秋ですね。皆様どうお過ごしですか。私は例年に無い程早く、濃い、沢山の秋の風物詩を満喫させて頂いております。

まずはスポーツの秋編。娘の運動会。リレーに出るお父さん、お母さん、勉強もスポーツも一夜漬けではダメですよ。私はそれを身をもって体験しました。リレーに出場する前、軽くジョギングして準備体操しました。いつもならなんてことない動きで膝が…その辺にいた人をつかまえて「もう出場できないと伝えてきてほしい。」と訳分らない伝達を頼むところでした。膝は気になりながらも結局娘の為に、と一生懸命走り優勝。優勝したかったー。「体育会系（スポーツマン）だったから」は過去形。毎日体育会系に生きることにします（^_^）

続いて芸術の秋編。あの日は偶然、オペラ歌手、岡本知高さんがテレビに出ていて、彼の全身全霊の歌声とトークに涙をポロポロ流した日でした。余韻にひたっていると、息子と約束の時間。午後四時に『赤道児童センターに音楽家がやってくるー』のです。いつも子供達がボール遊びをしている場所に、電子ピアノ、トランペットが置かれ、音楽



家の方々が音合わせをしています。学校帰りの子供達や保護者が集まってくると、フルート奏者の方の司会で音楽会は始まりました。沖縄の音楽、クラシック、演奏体験までありました。興味がある子、そうでもない子、それぞれいましたが、音楽家の方々は優しく楽しんで演奏していました。フルートの息使いや楽器に、より身近に触れてほしい、との音楽家の方々の計らいでステージ無しの本当に間近での演奏に感動しました。こういう機会を増やしていたら、親子ともども、感性を磨いていけたらと思います。

人を感動させる全ての物事は、その日、その時、その瞬間の為の過程が大事なんだと、そして感動した時、食欲の秋を大いに堪能するのです。

茶 ぐわーゆんだく 91

聖地 ミスクムウイ

旧パイプライン道路を伊佐から大山へ行き、ジミー手前の交差点を左に曲がり、丘を道なりに登ると、行き止まりの右手に鬱蒼と木々が生えたところがあります。地元の人達は美底山あるいはミスクムウイなどと呼んでいる御嶽です。近くには上具志川という御嶽もあり、古者によるとこの周辺が大山発祥の地ではないかということです。ミスクムウイの中に入ると正面に祠があり、左右に目を向けると石灰岩の崖面には洞穴などがあります。これらには昔、多くの風葬された人骨があったといわれています。

ミスクムウイはまた、大山貝塚とも呼ばれています。復帰前の1958（昭和33）年に発掘調査を実施して、写真の土器（現在の鍋）が見つかりました。これは大山式土器と名付けられ、沖縄の先史時代研究の発展に寄与しました。それは、ある遺跡でこの大山式土器が見つかること、その遺跡の年代は貝塚時代前期後半（縄文時代後期相当）となること、が決定付けられるということです。この大山式土器の生活用具・年代の物差しなどの重要性により、大山貝塚は

国史跡に指定されています。ちなみに現在では、放射性炭素年代測定などの科学的年代測定方法で、大山式土器の時代は今から約3,000年から2,500年前と具体的にわかっていきます。ミスクムウイは、大山の重要な聖地であり、文化財としても重要な地でもあります。大切にしていきたいものです。



「ミスクムウイと中にある祠」
祠は1933（昭和8）年頃に大山在郷軍人会が建設したといわれています。奥に小洞穴がいくつか見られます。



←大山式土器（模造品）
現在の鍋と違って、縦に長く、底は、径の小さな平らな底です。口の周囲を2から3条の点刻の文様をめぐらしているのが特徴です。

「宜野湾市史」へのお問い合わせ
教育委員会文化課 ☎893314430